２０１９．７．６
畑　啓之

鶏フンはおいしいトウモロコシを育て、犬フンは人を不快にする

今までは廃棄物として処理していた鶏糞（鶏フン）を肥料に使ったところおいしいトウモロコシが採れるようになった。１日に１トンの鶏フンが出、トウモロコシの栽培面積は１ヘクタール（約１町歩）、採れるトウモロコシは３万５千本。１本あたりの売価を 180 円とすると、売上高は 630 万円との単純計算となる。ふつうは１本から３本のトウモロコシが採れるから、実際の売上高はさらに高い可能性がある。廃棄物の処理費用代が収入に代わり、またおいしいトウモロコシを通して多くの人に喜んでもらえる、大きな変化が生まれた。

一方、嫌われているのは犬のフンである。多くの人が犬の散歩をさせているが、問題のフンはその中のごく一部の人の不心得によるものである。ただし、フンの特徴がそれぞれに異なっているので、一匹の犬からのものではないことは確かである。

加古川市広報７月号によると、昨年、加古川市の一部の地域で「イエローチョーク作戦」が実施され、効果ありとの感触を得たようである。それに遅れること数カ月、加古川市の遊歩道・松風こみちにおいても本年４月にこの作戦は実施されたようである（以下の写真を参照）。ただしこちらは、チョークの色は白色だった。また、写真の日付の後にはこの作戦は実施されていない。

日本経済新聞　2019.7.5夕

養鶏場のトウモロコシ!?

ふん肥料に、新名物

相模原

相模原市南区の養鶏場から出るふんを肥料に使ったトウモロコシが人気だ。粒が大きく甘いのが特徴で、朝に収穫すると夕方に完売することもしばしばという。養鶏が盛んな同区の新たな名物になっている。

トウモロコシを作っているのは、養鶏場を経営する「小川フェニックス」だ。約3万羽の鶏を飼育しており、ふんは1日1トンにもなる。以前は廃棄したり、近所の農家に配ったりしていたが、有効活用しようと15年ほど前からトウモロコシの栽培を始めた。

同社の久木田幸城さん(43)によると、鶏ふんには窒素が多く含まれ、窒素成分が欠かせないトウモロコシの肥料に適している。

冬の間に農地に混ぜて土壌を作り、3月に種をまき、収穫は6月ごろから始まる。今では栽培面積が1ヘクタールになり、約3万5千本の収穫が見込まれるほどになった。

鶏の餌には乳酸菌やゴマ、ヨモギなどを加えており久木田さんは「これを食べた鶏が出すふんも土にいいはずで、おいしいトウモロコシの秘訣かもしれない」と話している。

トウモロコシは養鶏場近くの同社の直売所「スウィートエッグス」で3本540円、JA相模原市の農産物直売所「ベジたべーな」で2本400円で7月中旬ごろまで販売している。

７月の広報で特集されるくらいであるから、今後の活動とその成果が期待される。

犬のふん害対策は「イエローチョーク作戦」が効果的です。

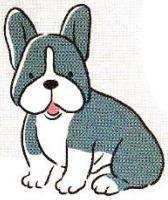
昨年11月の市民意識調査で、皆さんが「ポイ捨てやペットのふん害防止」の重要度を高いとするものの、現状の満足度は低いと感じていることが分かりました。そこで、市はふんの放置を減らすため、市保健衛生協議会※と連携して「イエローチョーク作戦」を推進しています。町内会や自治会で取り組んでみましょう。

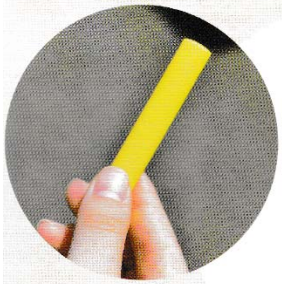
※市内の環境美化やごみ減量推進に精力的に活動している住民主体の団体。啓発事業やごみ分別指導などに取り組んでいます。

イエローチョーク作戦とは

京都府宇治市で始まった取り組みです。放置されたふんの周りを黄色のチョークで囲むことで、迷惑していることを飼い主に知らせ、飼い主のマナーやモラルの向上を啓発します。すでに実施している自治体では、ふんの放置が激減したという成果が出ています。

黄色のチョークを各自で用意しましょう





イエローチョーク作戦の方法

❶ふんを丸で囲む　❷発見した日時を書く

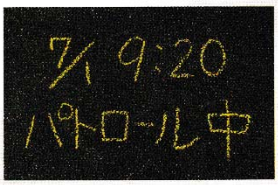
❸ふんを片付けず、日時を変えて現場を確認する

ふんが残っている場合 ▶「確認日時」を書き足す

ふんが残っていない場合 ▶「なし」と書く

❗ふんがないときも予防のために「パトロール中」と書くとより効果的です

※実施前に環境政策課に届け出てください。



試験的に実施しました

昨年12月から2カ月間、町内会の協力を得て、尾上町安田でイエローチョーク作戦を試験的に実施しました。終了後のアンケートでは、「継続することで効果が期待できる」「今後も取り組みたい」といった前向きな意見が多く寄せられました。

▶問い合わせ／環境政策課☎427・9199

経　過

別府鉄道(株)は、大正10年8月に野口・別府港間3.6kmを旅客輸送を主目的として創業し利用されてきましたが、大きな社会経済の変化によって昭和59年1月31日に惜しまれながら廃止されました。

松風こみちは、この別府鉄道跡地を市民に親しまれるアメニティ空間をもった歩行者（自転車）専用道として整備したものです。

事業の概要

松風こみちは、加古川市中心市街地の官庁街から臨海部の副都心に連絡する歩行者（自転車）専用道です。

近年の急速な都市化と、モータリーゼーションの進展によって、緑のオープンスペースの減少と、車による交通公害が著しいところから、自動車を排除した安全で快適な緑のある歩行者空間と、うるおいとやすらぎのある生活空間を確保するために、沿道および周辺の環境との調和を図りながら、また市内に点在する公園、史跡を結ぶグリーンのネットワークとして建設しました。

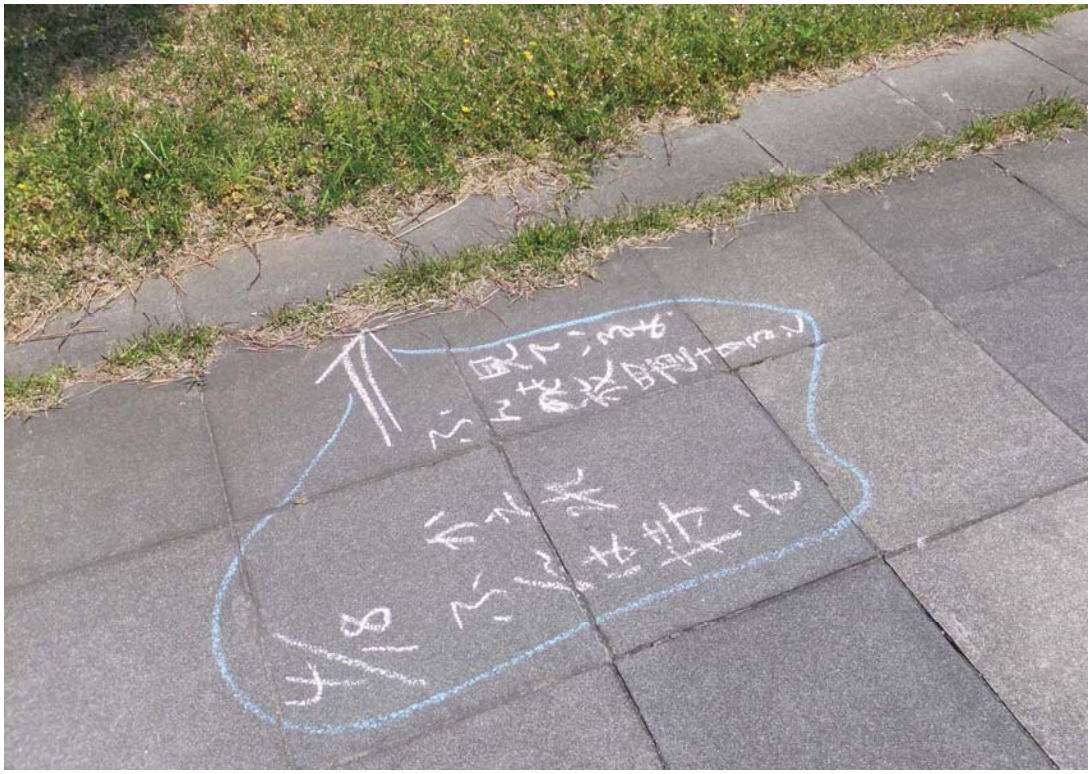
事業内容

延　　長	3,095.0m
幅　　員	平均7.0m(4.3m～13.0m)
自・歩道幅員	3.0m
植　　栽	高木 黒　松(市木)　530本 低木 つつじ(市花)6,700本、その他240本
休 養 施 設	旧駅舎跡　4箇所、　広場　1箇所 （シェルター、ベンチ、水のみ場、その他
事 業 期 間	昭和62年度～平成元年度
事　業　費	約7億6,000万円

史跡名所

1. 鶴林寺
2. 円長寺古墳
3. 黒松林
4. 日本最古のオリーブ
5. 手枕の松
6. あかがね御殿

休憩所

- A 安田休憩所
- B 長砂休憩所
- C 坂井休憩所
- D 別府休憩所
- E 円長寺広場
- F 中別府児童公園

犬のフン放置禁止!
フンは家に持ちかえりましょう
違反したものは、条例で罰せられる場合があります。
加古川市
加古川警察署
町内会